



## 企業情報から読み解く今後の経済情勢について懇談

9月度議員懇談会を9月1日11時より福井商工会議所ビルにて開催し、議員70名が参加した。

開会の挨拶で八木会頭は、この夏に行われた催しを振り返った。ハワイのホノルル日本人商工会議所と福井商工会議所の友好提携から40周年を迎えたことに合わせて、7月12日からホノルルを訪問。7年ぶりの訪問はアットホームな中で交流を大いに深める機会となったと振り返った。また、今年11月にはホノルルメンバーの来福も予定されており、精一杯のホスピタリティでお迎えしたいと述べた。

8月2日には、北陸新幹線福井開業を直前に控える中で、さいたま商工会議所との経済交流会を開催。福井の食や自然などのPRを行い、埼玉側から



開催のあいさつを行う八木会頭

も好感を得ることができ、今後は観光のみならず産業や文化面の交流を進めていきたいと抱負を語った。

19日には第70回福井フェニックス祭り民踊大会を開催。昨年の3倍となる約800名の方が参加し、大会後の参加者交流会を含めて大いに盛り上がり、充実したイベントとなったと振り返った。「来年はより多くの方に参加いただき、規模を拡大して開催していきたい」と意気込んだ。

最後に、22日に敦賀市で開催された福井県経済界サマースクールについて、飯田経済産業事務次官をはじめ、各界で活躍する講師から示唆に富む講演があり、懇親会では地域や業界を超える交流が行われたことを紹介。参加いただいた議員に対し感謝を述べた。

続いて卓話に移り、株式会社帝国データバンク福井支店長の篠原勝志氏が、「企業情報から読み解く今後の経済情勢」と題し、同社の147万社の企業データを基に、人・モノ・カネの動きからの経済情勢について講演を行った。

講演では4つのテーマで解説が行われ、まず、「物価高騰」に関して、企業への物価高騰の影響や企業の価格転嫁率が約4割に留まっていることを紹



篠原氏による卓話の様子

介。  
次に「企業と人」に関して、賃上げや休暇増加による人手不足の解消策を説明。また、企業の後継者不足の現状についても触れた。

続く「経済再生の分岐点」では、コロナ禍の融資や支援金により、見かけの利益は増加しているものの、本業での営業利益は減少していることを解説。今年からコロナ融資の返済が本格化する中で、全体の約1%の企業が事業継続不能に陥る恐れがあると分析した。

最後に「2023年度の見通し」として、今後も倒産の増加傾向が続く一方で、国は伸びている企業を支援する政策転換が図られ、企業の2極化が進んでいくと述べた。